



第 26 号  
平成 30 年 3 月 9 日  
発行  
熊本市北区  
高平 2-20-35  
曹洞宗 浄国寺  
編集者  
中山 義昭

# 平成三十年

# 春季彼岸会法要

## 春彼岸法要の御案内



今年も例年通りにお彼岸の先  
祖供養法  
要を行います。  
山では、壇信徒の方のご先祖様の供養の法要を春のお

今年は、いつまでも寒い  
なと思っていました。昨日  
(四日)から、急に気温が  
上がり、春めいたきました。  
寒暖の差が大きいと体調が崩  
れがちになります。皆様方、  
どうぞ、お気をつけ下さい。  
今年も例年通りにお彼岸の  
先

彼岸と七月のお盆供養と  
しての施餓鬼法要を開催  
しています。それ以外に、  
四月二十九日(昭和の日)  
に本堂に祀っております  
「谷汲観音像」とその作  
者である松本喜三郎翁の  
の観音像と墓前祭、秋に  
は「いま、心にZEN」と  
題して特に生きていく  
指針としての仏教と禅の  
講演会プラス寺に親しん  
で貰いたく音楽会を合体  
させたイベントを行って  
います。  
昨年の彼岸は、熊本大  
地震の復興を祈念して、  
通常の法話でなく大人の  
紙芝居を岐阜県の宮地直  
樹老師を拜請して行つて  
貰いました。今年も、隣  
の植木町の瑞泉寺の副住

職である柏木晟孝師にお  
願ひして法話を一座設け  
ています。師は寺の出身  
ではなく、結婚を機に禅  
の道に入り出家し、長崎  
の修行道場で修行を積み  
曹洞宗の僧侶となられま  
した。出家前は、音楽関  
係の仕事をしていて、  
私は、その頃から彼と知  
己を得ていました。彼は、  
今の時代こそ人の生活に  
仏教の発想が必要ではな  
いかと考えておられるよ  
うで(この点、私も同様  
です)、お寺の一部を改  
装し「テラコヤ」と言う  
施設を作り、地域や、特  
に子ども達の交流の場を  
作り頑張つて活動されて  
います。私の晋山式の時

## 浄国寺春季彼岸会

日時 平成三十年三月二十四日(土)

午前十一時より

春季彼岸壇信徒総供養

供養 了つて法話

熊本市北区植木町味取 瑞泉寺 副住職

柏木 晟孝 宗師

※師は二月十六日付けの熊日新聞に於いて「テラコヤ」の主宰として  
取り上げられています。  
簡単な弁当を用意しております。出欠及び人数を同封の葉  
書で返信下さい

いただきます



一所懸命に手伝つて頂き  
ました。新しい視点から  
のお話しが聞けるのでは  
ないかと私も楽しみにし  
ています。因みに彼のお  
寺「瑞泉寺」は俳人・種田  
山頭火が一時住んでいた  
ところとしても有名です。

## お彼岸の由来 3

一昨年の案内状として  
出した通信(第二一号)  
昨年の案内状(第二三号)

「涅槃」とか「成仏」  
と言えば、一般に死後の  
世界のイメージを持つ方  
が多いでしょう。しかし、  
お釈迦様は死後の世界に  
ついて説かれたものではあ  
りません。「娑婆即涅槃」  
「涅槃即娑婆」と言われ  
るように、涅槃⇨彼岸は、  
ここより外のどこかに存  
在する訳ではないと言わ  
れています。確かに、人  
間の煩惱や苦しみは人間  
の肉体や感覚器官に由来

にお彼岸の由  
来について書  
きました。が、  
再度視点を  
変えて触れたい  
と思ひます。  
彼岸とは、こ  
ちら側の世界  
が苦しみに満  
ちている此岸  
であるのに向  
しての向こう  
岸(彼の岸)  
つまり煩惱や  
苦しみから解  
放された心静かな世界⇨  
仏の世界を指しています。  
原語の音訳で言えば、彼  
岸はニルバーナ(音訳で  
涅槃)、此岸はシャーバ  
(音訳で娑婆、意味は忍  
土)になります。

するものが多いのは事実です。その容れ物つまり肉体から解放されれば苦しみの原因も減るでしょう。しかし、何よりも苦しみを倍加させているのは、私達の意識や頭で作った考えかも知れません。だからこそ、今、ここに生きている事、この現実を大事にして、より良く生きる努力をする事が必要なのではないでしょうか？

今、この時 呼吸している事、食べている事、話をしている事、つまり生きていてこの一瞬を大事にして生きる事が大切だと思います。その事を伝えてるのが仏道だろうと思っています。

昔は、一所懸命に生きて、天候に左右されながらも額に汗して農作業に励み、その結果としてできた作物を仏様と自分を生み、育ててくれたご先祖様に感謝しながらお供えをする風習がありました。これが、現在も残っている春と秋のお彼岸の風習の由来だろうと思います。グロ

バリズムの影響か、近年 全ての価値を金銭に換算して



しまう傾向が強くなっています。そして、その得られた対価は、全て自分のみ報酬として獲得するものだと考えがちです。自らを利することでも他も利する、自他を必要以上に分ける必要は無いように思われます。

赤ん坊の笑顔は、無条件に人の心を和ませます。そこに金銭も利益もありません。必要以上に算盤勘定に走らないように戒めるためにも、たまには、今生きている事を実感してみる、命を生み出したご先祖様の事を考えてみる時間が必要じゃないでしょうか？お寺と仏教が、その一助になれば幸いです。

今ここにZEN

この十年ほど続けてきた企画です。やとと定着してきたようです。近年 少しずつ坐禅をしてみたいと参禅会に参加される方が増えてきたのとシンクロするよ



うにイベントの参加者も増えていきます。現在、私が講師を務めているリビングカ

ルチャヤセンター(ゆめタウン浜線)の「坐禅と禅語」講座の参加者も増えていきます。多分、今の閉塞した社会状況に 多くの人が息苦しさを感じているのでは。二極化がますます進行している日本社会で金銭獲得だけに目標設定しても空しい(お金はあるに超した事はありませんが) 現実が心の安定を求めさせているのでしよう。坐禅とまでは行かなくても、たまには、お寺に立ち寄って静かに深呼吸してみませんか？一銭にもなりません、何だかホッとする一時を得る事ができるかも知れません。昨年十一月のイベントは、「いす坐禅」の方法について話をしました。恒例の「お寺でジャズ」コーナーは今回二度目になるBass、Drumsの素敵な演奏が行われました。リーダーの鈴木さんが古希、ピアノとフルート

定例木曜坐禅会

毎週木曜日 午後八時より  
当山本堂にて

一炷(約四十分)坐禅をして、仏教や禅の著述に関する話(約二十分)。今は「佛遺教経(八大人覺)」。会費会則一切なし、初めてのの方はご連絡下さい。

が還暦の高年齢者バンドですが、情熱と円熟のバランスの取れた素敵な演奏でした。今年も同じメンバーで来てくれる予定です。音楽三昧の世界に浸るのも良いんじゃないかと思えます。多分、講演会はカトリックの神父様との対談になると思います。



平成三十年 浄国寺予定  
四月二十九日(日) 午後二時  
松本喜一郎 墓前祭  
喜三郎翁 追悼供養  
谷汲観音供養 その他  
七月三日(火) 午前十一時  
施餓鬼会法要  
お盆壇信徒先祖総供養  
十一月十日(土) 午後六時  
「いま、心ZEN」  
仏教講演会 鈴木良雄&Bass  
記念音楽会  
Talk

人は不完全です。だから宗教があるのです。その宗教同士がお互いに敬意を持って理解する事が出来れば争いは無くなるのでは無いかなと思っています。

身辺雑記

私も今年も還暦だ。あつという間と言う気もするが、身体の息切れも隠せない。肝臓の前科持ちだから、どこまで持つかは分からない。しかし、生きていく限りは一杯生きていきたい。ただ、園長として幼子と接していると、この子達が迎えるこれからの日本社会に大きな不安を感じる。特にバブル以降のエスタブリッシュメントの劣化は暗澹たる気持ちにさせられる。心ある学者は、幼児期の教育(施設と家庭の両方)の重要性を説き、日本のこの分野での後進性を訴えてきた。やとと幼児教育の無償化が狙に乗ったかと思えば、消費税の値上げ材料のネタにされ、いつの間にか子育て支援策にすり替えられ、母親の働かせ方に安んずる道具になる。母親は、いかにできるかの方法開拓に情熱を注ぐ。残った僅かな金銭は、大人の自己確認と自己実現に使われ、子どもは冷凍食品とファストフードの毎日だ。認定こども園になり、約一年が過ぎた。「うちは、子どもの為の施設であり、親の福利のための機能は付加部分だ」と訴え続けている。この二つも達だけは、金が無くてはたくましく幸せな日々を送れる子どもになって貰いたい。それが今の私の最後の使命かな？